

2025年度 学校評価

NHK学園高等学校 校長 森川 寛

NHK学園高等学校は、2025年度の学校評価において、スクールミッションおよびスクールポリシー、事業計画、それに前年度の学校評価で明らかになった課題を踏まえて、以下の4つの評価項目を定め、生徒、保護者、教員を対象にアンケートを実施しました。そこで浮かび上がった課題について、教員間で討議し改善策を検討した上で、第三者評価委員会に諮り、その指摘を踏まえて、次年度に取り組むべき課題と改善策をまとめました。

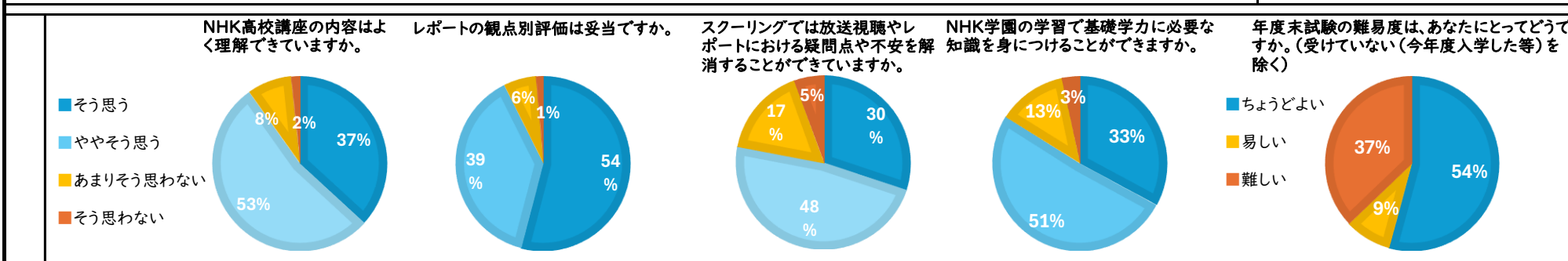
なお、評価項目ごとの達成度については、生徒アンケートで「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合の平均値をもって、評価しました。数値でお示しできる一つの指標として、「次年度への課題と改善策」とあわせてお読みください。

「スクールミッション」

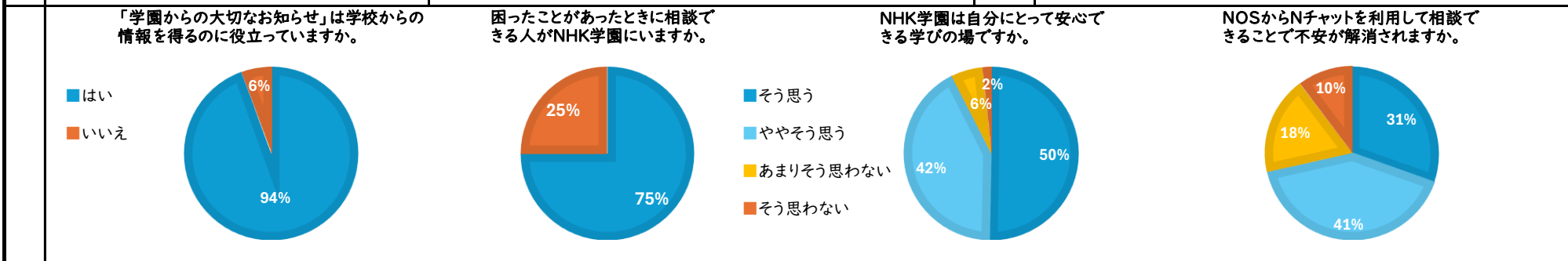
NHKと連携し、放送やインターネットなどの多様なメディアを利用することで、学ぶ意欲と高校卒業の意思を持つ人に、「いつでも、どこでも、だれにでも」学ぶ機会を提供し、自立して未来を生き抜くための基盤となる力を身につけていく学校

評価項目

1	学習指導	「放送視聴」「レポート」「スクーリング」「試験」によって生徒の意欲的・自主的な学習を推進し、基礎学力向上を図る。	達成度 生徒アンケートの回答平均値 「そう思う」+「ややそう思う」 A:平均 80%以上 B:同 60%以上 C:同 40%以上 D:同 40%未満
2	生徒サポート	生徒一人ひとりが安心して学校生活を送れるようチームサポート体制の充実を図る。	
3	進路指導	生徒が各々の進路目標を実現できるよう進路指導体制の充実を図る。	
4	学校全般	高校生活において満足感と達成感が得られるよう学校全体でスクールミッションの実現に努める。	
回答数		生徒 1,427人 (回答率51%)	



課題	具体的取り組み	達成度	次年度への課題と改善策
<p>1 学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独自開発のネット学習システム(「N学オンラインスペース」=NOSと呼ぶ)によるレポート学習等の効果を検証し、さらに学習しやすいものになるよう開発を進める。</li> <li>・スクーリングのあり方について、自宅学習における疑問点や不安の解消につながるものになるよう研究を継続するとともに、教員研修を充実させ、スクーリングだけでなくレポート添削や試験も含めた通信教育の指導全体を通して学習の定着と学力の向上が実現されるよう改善策を検討していく。</li> <li>・「観点別評価」について検証し直し、観点ごとの学力の到達度の評価が生徒一人ひとりに実感できるものになっているか、評価のあり方を継続して検討する。また、生徒自身が学力の向上を多角的にとらえることができるようになっていくか、今後、見極めていく。</li> <li>・適正な評価が行われるために、年度末試験の難易度についての質問をアンケート項目に追加した。試験問題の作成に当たっては、各科目において、日常のレポート学習の内容に準拠しつつも、より発展的・応用的な設問をバランスよく配置していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度の反省から、中間到達度チェックに取り組む際の画面について、経過時間の表示を見やすくしたり、誤送信のリスクを避けるためのボタンの配置等を変更し、試験向けに取り組みやすく設定し直した。結果、再受験の件数が約4割に減少した。</li> <li>・生徒アンケートの質問項目「スクーリングでは放送視聴やレポートにおける疑問点や不安を解消することができますか」については、肯定的回答は78%と、前年度比で4ポイント上昇した。また、この回答を東京本校と協力校に分けて分析したところ、どちらも同様の結果であった。「通信教育実施計画」に基づいた、スクーリング実施における全国の標準化が進みつつある。</li> <li>・前年度のアンケート結果を受け、芸術科目において、「観点別評価」の見直しを行った。レポートの添削基準、評価基準を含めて総合的な見直しを実施し、次年度へ向けて変更する。</li> <li>・生徒アンケートの結果からは、基礎学力における「知識」と「思考力・判断力」習得に差異は見られなかった。レポートへの取り組み、スクーリング、試験を通して、生徒自身が学力の向上を多角的にとらえられるようサポートしていく。</li> <li>・年度末の試験問題については、知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力を育成する観点から、全科目で記述式の設問を一定程度取り入れることを徹底した。また、作成された問題が適切な内容となっているかどうかを、担当係が確認した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習への取り組みだけでなく、成果に対する振り返りも適切に行えるよう支援する。学習の進み具合を把握しながら、学校生活を円滑に送れるよう自立を促すサポートを行う。</li> <li>・本校の取り組みを全国の協力校へ浸透させることに工夫を行ってきたが、今後はさらに、ひとつの協力校での先進的な取り組みを他の協力校へ広げて平準化を推進していけるような仕組みづくりを検討する。</li> <li>引き続き教員研修を充実させ、スクーリングだけでなくレポート添削の返却までの期間の短縮や添削の質の向上に努めていく。また、試験も含めた通信教育の指導全体を通して学習の定着と学力の向上が実現されるよう改善策を検討していく。</li> <li>・学園としての評価基準の統一について検討を進めるとともに、体育・芸術など実技を中心とする科目にふさわしい評価方法や、各教科の独自性をどこまで認めるかについて、引き続き教員間で議論を深めていく。生徒にとっても理解しやすく、納得できる評価のあり方を目指して検討を継続する。</li> <li>・年度末試験の難易度について、全体的には「ちょうどよい」と感じている生徒が54%という結果であったが、科目間での差異も予想される。また、50分間の試験時間内における取り組みにおいて、設問の質だけでなく量についても、精査していく。</li> </ul>



課題	具体的取り組み	達成度	次年度への課題と改善策
<p>2 生徒サポート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の心理面での課題に対し、保護者も適切な対応ができるよう、本校のスクールカウンセラー(SC)によるビデオ講座をリニューアルし、NOSのお知らせから配信する。</li> <li>・SCが常駐していない協力校の保護者や生徒に対し、オンライン研修会などを年間計画・実践する。</li> <li>・養護教諭から生徒・保護者に向けた「保健室たより」を定期発信し、日々の健康管理を呼びかける。</li> <li>・本校で実施した「SOSの出し方教育」を協力校でも実施する。NHK学園内に気軽に相談できる人(担任、SC、SSW、養護教諭等)がいることをさらにアピールし、相談の仕方をより具体的に伝えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の心理面での課題に対し適切な対応ができるように保護者向けのビデオ講座(6本)を本校SCが作成し、NOSのお知らせから配信した。</li> <li>・年度の前半にオンラインで全国のSC、スクールソーシャルワーカー(SSW)による会議を開催した。本校の相談件数や内容について分析した結果をもとに、今後の支援について検討し、ネットワークの強化につなげた。また、SCが常駐していない協力校(岩手県立杜陵高校)に「まなびや仙台」のSCを派遣して保護者会を開催した。</li> <li>・本校相談室からレターを発行し各地区にも年3回配信、加えて協力校SC独自の「通信」の送信を依頼し、複数校で実施できた。</li> <li>・本校養護教諭から生徒・保護者向けの「保健室たより」を毎月発行し、生徒の健康管理に努めた。</li> <li>・生徒の心身の安全を守るための「SOSの出し方教育」を協力校ホームルームで実践した。また、NHK学園にはSCやSSWといった専門職をはじめ多くの相談者がいる環境であることを冊子「N学の住人」で示した。</li> <li>・進路指導と相談係との協働で、生徒の進路支援として「自分らしくはたらくガイダンス」をオンラインで実施し、全国の生徒・保護者が多数出席した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信制高校は校内での健康診断の集団受診が難しいため、各自で健康診断を受診する必要がある。自己の健康管理の重要性をさらにアピールし、健康診断の受診率を上げる。また、生徒・保護者へ向けての「いのちの授業」のビデオ講座を作成し、保健室から配信する。</li> <li>・ひきつづきオンライン会議を開催し、ネットワーク強化に努める。</li> <li>・学校医、学校歯科医、学校薬剤師、心の相談医の協力を得て、発信物の内容の充実化を図る。また、指導の標準化の一環として、本校で実施する講演会は、できる限り協力校の保護者・生徒も視聴できるようにオンラインで同時配信する。</li> <li>・進路指導部との協働をさらに進め、全国の生徒と保護者に対し進路支援を強化する。</li> </ul>

		卒業後の進路について教えてください。	進路についての先生の指導やアドバイス、学園の取り組みに満足していますか。	自分のやりたいことを見つけることができますか。
3	進路指導	<p>■進学(大学・専門学校) 54%</p> <p>■就職 28%</p> <p>■すでに働いている 4%</p> <p>■未定 12%</p> <p>■その他 2%</p>	<p>■そう思う 52%</p> <p>■ややそう思う 32%</p> <p>■あまりそう思わない 12%</p> <p>■そう思わない 4%</p>	<p>■はい 47%</p> <p>■いいえ 34%</p> <p>■どちらでもない 14%</p> <p>■わからない 5%</p>
	課題	<p>・進路に関するアドバイスや学校の取り組みがまだまだ十分でない部分があるという意見を受けた。</p> <p>・「あすなるカフェ」の利用予約が行いにくいという声があった。</p> <p>・自分の能力や志向を把握できる「学びみらいPASS」というアセスメントテストを導入し、2025年度は2年次まで実施するようになった。この実施期間等について検討し、多くの生徒が取り組み、進路指導はもとより、学習指導、生活指導にも生かしていく。</p> <p>・自分のやりたいことを見つけられないまま卒業する生徒たちへのサポートの充実が必要である。</p>	<p>・「あすなるカフェ」がオンラインで全国誰でも相談できるということの周知に力を入れた。また、NOSのチャット機能で「進路について」という選択肢を用意し、そこで進路相談ができるようにした。そのチャットは担任、進路指導部教員、進路指導担当管理職に届くようになっており、質問に応じて誰が回答すべきかを考え、的確に回答できるように改善していった。</p> <p>・上述のNチャット機能を予約を行う方法の一つとし、そこで生徒が書き込んだ希望日時に予約を入れるようにした。また、Nチャット機能では、担任が不在の場合には進路指導部が対応することで、素早く、かつ返信漏れがないようにした。</p> <p>・「学びみらいPASS」は2025年度、主に1・2年次が履修する科目のレポート課題として導入。9月上旬に提出するために8月の夏の時期に取り組みするように設定している。これを利用して、10月以降、三者面談を実施した際に進路指導や学習指導の参考にしていたが、取り組みなかった生徒からの問合せも多く、10月に追加で実施時期を設けて取り組めるようにした。また、2026年度は全生徒が対象となるが、試験運用として先に行っていた3年次生から、8月の実施は受験時期との関係から取り組みにくいとの意見があったため、3年次のみ5月に実施できるよう運用方法を見直した。</p> <p>・在学中、アセスメントテストを活用するだけでなく、ボランティア活動への参加等、外部とのつながりを通して、視野を広く持ち、少しずつ進路を検討できるよう、ボランティアに関する情報等も多く発信するようになった。</p>	達成度
4	学校全般	<p>■そう思う 47%</p> <p>■ややそう思う 47%</p> <p>■あまりそう思わない 1%</p> <p>■そう思わない 5%</p>	<p>■そう思う 66%</p> <p>■ややそう思う 28%</p> <p>■あまりそう思わない 1%</p> <p>■そう思わない 5%</p>	<p>■はい 37%</p> <p>■いいえ 45%</p> <p>■どちらでもない 14%</p> <p>■わからない 4%</p>
	課題	<p>・高校生活を送る中で満足度がより高まっていくよう、学校全体でスクールミッションの実現に努める。</p> <p>・NOSを、学習を進めるための基幹システムであるだけでなく、学校からの情報を伝える生徒同士の交流を培うコミュニケーションツールとしても最大限活用できるよう、サポート体制や様々な便利な機能の周知を徹底する。</p> <p>・学校評価アンケートの結果を生徒や保護者にフィードバックし、学校評価を学校の改善に役立てていることを伝えることで、回答率の上昇を図るとともに、生徒たちが自由に意見を述べることのできる開かれた学校づくりを進めていく。</p> <p>・特色ある教育活動や手厚いサポート、在校生・卒業生の活躍などをわかりやすく発信するとともに、実際の学習の様子などを見てもらう機会をさらに増やし、通信制高校の特色をよく理解した上で入学してもらえるようにする。</p>	<p>・自立して生き抜くための基盤となる力を身につけることができるよう、学習指導の改善、SCからの発信を増やすなどの生徒サポートの拡充、新たなツールも活用した進路指導などに取り組んだ。また、特別活動において、オンラインを活用し全国の生徒が交流できる機会を創出した。</p> <p>・2024年度にリニューアルしたNOSを生徒たちが使いこなせるようサポートに努めた結果、「利用しやすい」と答えた生徒が87%と前年度より増えた。また、画面を開くとその時点で最も重要な連絡事項を簡潔にまとめた「プリーフィング動画」が立ち上がる新機能を導入した結果、生徒に大切な情報が伝わりやすくなった。</p> <p>・「10分で未来の学校づくりに参加しよう」というキャッチコピーを作って、生徒たちに学校評価アンケートへの記入を呼びかけた。この呼びかけが功を奏し、生徒の回答率、回答数、自由記述欄への記述がいずれも前年度より増えた。とくに自由記述では、具体的な改善提案が多く寄せられた。</p> <p>・2025年12月にホームページを大幅にリニューアルし、通信制高校の特色を紹介した上で、NHK学園の各コースの特長を丁寧に説明し、入学検討者が最も自分に合ったコースを選べるように努めた。また、学校生活の様子をきめ細かに発信するとともに、スクーリングの様子や行事を見学できる機会や在校生の話も聞ける場を増やして、学校生活を具体的にイメージしてもらえるようにした。</p>	達成度
<p>第三者評価委員からの指摘・評価等</p> <p>○前年度から改善されている点も多いが、安心安全メールの運用については引き続き課題としてあがっているの見直してみてもどうか。</p> <p>○アンケート項目の「自立」という漠然とした言葉に対する生徒と保護者の達成感が少ない。何ができるようになれば自立したといえるのかについて、学校としての目標値や教員間での共通認識を持っていくとよいと思う。</p> <p>○「未来の学校づくりに参加しよう」と呼びかけ、生徒の回答率が上がるなど、色々なアイデアを出して工夫していることは、とてもよかった。通信制で100%は難しいが今後、アンケートの回答率をどう上げていくか、どのように回答を把握していくかを検討しておいた方がよい。</p> <p>○自由記述で共通点として挙がっていた「自由度と親身な先生たち」という学園の特長を、学校見学に来られた方に対してアピールできる機会が少ないように思う。工夫してどうか。</p> <p>○満足度については、卒業に向かって満足度が上がっているかどうかが必要である。総合評価の記載をみて、他の項目の肯定的・否定的回答を比較すると、新たなものがみえてくるのではないかと。また、年次ごとに集計して、年次進行で変化を追っていくといういろいろなことが見えてくると思う。</p> <p>○保護者と子どもは必ず繋がっているため、保護者を満足させるためにはどうしたらよいか考えていくとよいのではないかと。スクーリングの改善などとともに、保護者・子どもの声を聞くことのできる教員を研修などで育てていくことが教員の質を高めていくことにつながると思う。</p> <p>○アンケートから抽出されている「合理的な配慮などにより、自分らしく成長できる」という学園の良さ・魅力がもう少しPRされるとよい。</p> <p>○教員討議はとても意義がある。生徒アンケートから浮かび上がった課題について、できることから対応していくという姿勢はとても大事なことである。討議結果を踏まえて課題を整理し、具体的な改善策、何をいつまでに取り組むのかをまとめていくとよい。</p> <p>○自分が勤務している学校で、保護者から「保護者会」ではなく「座談会」への名称変更の希望があった。保護者の積極的な参加を促すためには、保護者どうしの横のつながりをイメージしたほうがよい。勤務時間などの制約もあるが、思い切って夜の時間帯に設定してみることも検討してはどうか。</p> <p>○今後の課題として、生成AIについて、生徒・教員それぞれの使用をどのように制限し、あるいはどのように使用させるのかというポリシーを一度どこかで議論される機会があればよいと思う。</p>				
<p>&lt;2025年度 第三者評価委員(五十音順 敬称略)&gt;</p> <p>・新井しのぶ 小金井市立東中学校 校長</p> <p>・荒西 岳広 国立市教育委員会 教育指導支援課長</p> <p>・井村 良英 認定NPO法人育て上げネット 執行役員</p> <p>・小宮山 英明 全国高等学校通信制教育研究会 事務局長</p> <p>・山田 哲也 一橋大学大学院 社会学研究科・社会学部 教授</p>				